

令和4年度一般採用試験  
数学・社会（日本史）試験問題  
(人文・社会科学専攻)

(注意)

1. 解答用紙の注意事項を確認のうえ、例にならって氏名及び受験番号を解答用紙に必ず記入及びマークすること。

例 【氏名】 防大 琢 【受験番号】 神奈川人W1234 の場合

※氏名及び受験番号の記入について

	氏	名
フリガナ	ボウダイ	ナギサ
漢字	防大	渚

	志願地本名	専攻区分	番号
受験番号	神奈川	人	W1234

※受験番号等のマークについて（女子受験者は、番号のWはマークしない。）

志願地本名	札幌：01	福島：10
	函館：02	茨城：11
	旭川：03	栃木：12
	帯広：04	群馬：13
	青森：05	埼玉：14
	岩手：06	千葉：15
	宮城：07	東京：16
	秋田：08	神奈川：17
	山形：09	新潟：18

専攻区分
人社
性別
男 1
女

番号			
0	0	0	0
1	1	1	1
2	2	2	2
3	3	3	3
4	4	4	4
5	5	5	5
6	6	6	6
7	7	7	7
8	8	8	8
9	9	9	9

2. 試験時間中は、すべて試験係官の指示に従うこと。

3. 解答方法は、択一式であり、設問ごとの指示に従い、解答用紙の解答欄にマークすること。

例えば、[1] [A] の問1と表示のある問題に対して③と解答する場合は、次の例のように[1] [A] の問1の解答欄の(3)にマークすること。

例	解答欄			
	[1] [A] 問1	1	2	3
				4

1 以下の〔A〕〔B〕のすべての間に答えなさい。

〔A〕13世紀から16世紀にかけての中国・朝鮮との通交に関する次の文章を読み、以下の間に答えなさい。

13世紀以来、中国大陆、朝鮮半島の沿岸では倭寇の動きが活発になり、明も李氏朝鮮もたびたび倭寇の禁圧を日本に求めてきた。

(a) 足利義満は、1401年に明へ使者を派遣し、国交を開いた。明からは日本国王宛ての返書と、明の暦が与えられた。日本国王の称号は、一般の中国人の海外渡航や海上貿易を禁止し、国王以外には貿易を認めない海禁政策をとっていた明との通交には欠かせないものであった。これ以後、將軍から明の皇帝に宛てた公式文書には、「日本国王（ア）」と署名した。また、明との貿易に際しては、明の皇帝が発給する勘合と呼ばれる証票を持参することになった。そのため、この(b) 日明貿易を勘合貿易と呼ぶ。日明貿易は、朝貢の形式が屈辱的であると反対した4代將軍（イ）によって一時中断されたが、6代將軍（ウ）のときに再開された。再開後の貿易では、幕府の衰退とともに有力守護が実権を握るようになった。(c) 1523年に、細川氏と大内氏の争いがおきた。この争いに勝った(d) 大内氏が貿易の実権を握ったが、(e) 16世紀半ばの大内氏の滅亡とともに勘合貿易も断絶した。

朝鮮も日本に対して倭寇の取り締まりと通交を求め、足利義満がこれに応じたため国交が開かれた。(f) 朝鮮との貿易はその当初から、幕府だけではなく西国の守護や商人らも参加してさかんにおこなわれた。1419年には、対馬守護の代がわりによって倭寇が活発化したとみた朝鮮軍が、対馬を大挙して攻撃する（エ）がおこり一時中断されたが、その後再開された。しかし、1510年に(g) 三浦の乱がおきたことにより、日朝貿易はその後衰退していった。

問1 下線部(a)に関連して、明との通交について述べた文X・Yを読み、その正誤の組合せとして正しいものを以下からひとつ選びなさい。

X 第1回の遣明船の正使は祖阿、副使は堺の商人の肥富であった。

Y 明国内での滞在費は日本の負担であったため、貿易からの日本の利益は大きくなかった。

- ① X 正 Y 正      ② X 正 Y 誤  
③ X 誤 Y 正      ④ X 誤 Y 誤

問2 (ア)にあてはまる語句を以下からひとつ選びなさい。

- ① 源道義      ② 臣源      ③ 臣源道義      ④ 良懷

問3 下線部(b)に関連して、遣明船の船体は、室町時代の末期に成立した絵巻物によって知られる。その絵巻物を以下からひとつ選びなさい。

- ① 石山寺縁起絵巻      ② 真如堂縁起絵巻  
③ 春日権現験記      ④ 北野天神縁起絵巻

問4 下線部(b)の日明貿易における日本の主な輸入品を以下からひとつ選びなさい。

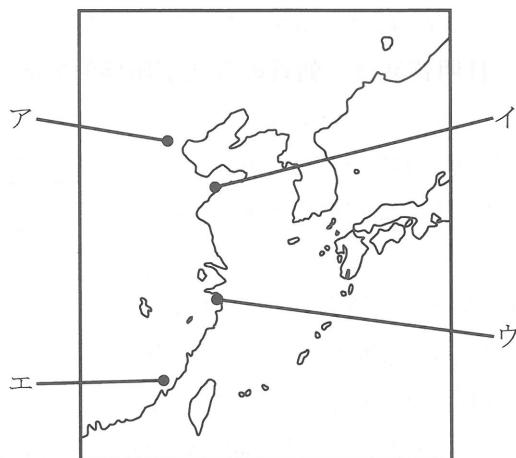
- ① 陶磁器 ② 刀剣 ③ 硫黄 ④ 屏風

問5 (イ)(ウ)にあてはまる人名の組合せを以下からひとつ選びなさい。

- ① イ 義尚 ウ 義政 ② イ 義持 ウ 義教  
③ イ 義持 ウ 義尚 ④ イ 義教 ウ 義政

問6 下線部(c)に関連して、1523年に細川氏と大内氏が衝突する事件がおこった場所として適切な地図中の記号を以下からひとつ選びなさい。

- ① ア ② イ ③ ウ ④ エ



問7 下線部(d)に関連して、1467年に大内氏の援助によって明に渡って絵を学び、帰国後に『秋冬山水図』などを描いた人物の名を以下からひとつ選びなさい。

- ① 土佐光信 ② 狩野正信 ③ 雪舟 ④ 雪村

問8 下線部(e)に関連して、大内氏は16世紀の半ばに重臣によって国を奪われた。その重臣の名を以下からひとつ選びなさい。

- ① 松永久秀 ② 毛利元就 ③ 陶晴賢 ④ 大友義鎮

問9 下線部(f)に関連して、日朝貿易における日本の主な輸入品を以下からひとつ選びなさい。

- ① 銅 ② 木綿 ③ 香木 ④ 蘇木

問10 (エ)にあてはまる事件を以下からひとつ選びなさい。

- ① 刀伊の入寇 ② 文永・弘安の役  
③ 応永の外寇 ④ 文禄・慶長の役

問11 下線部(g)の三浦の乱について述べた文として正しいものを以下からひとつ選びなさい。

- ① 朝鮮人の営業上の特権が次第に縮小されていったので、これを不満とした朝鮮人が朝鮮の富山浦などにおいておこした暴動である。
- ② 日本人の営業上の特権が次第に縮小されていったので、これを不満とした日本人が朝鮮の富山浦などにおいておこした暴動である。
- ③ 日本人の営業上の特権が次第に拡大されていったので、これを不満とした朝鮮人が対馬の富山浦などにおいておこした暴動である。
- ④ 朝鮮人の営業上の特権が次第に拡大されていったので、これを不満とした日本人が対馬の富山浦などにおいておこした暴動である。

〔B〕14世紀から19世紀にかけての琉球・蝦夷地との交易に関する次の文章を読み、以下の間に答えなさい。

琉球では、14世紀に、山北（北山）・山南（南山）・中山の三つの勢力（三山）があらわれ、1368年に建国された明にそれぞれ入貢し、冊封を受ける関係を築いていた。1429年に（ア）が三山を統一し、首里を王府として琉球王国を建国した。

(a) 琉球王国は、1609年に（イ）藩の島津家久に侵攻されると、明に服属するとともに（イ）藩にも支配される日明両属の形で統治されることになった。（イ）藩は、琉球を独立した王国として中国との関係を継続させたが、琉球を支配下に置きつつ、その通商交易権も掌握した。琉球からは、琉球国王の就任を感謝する謝恩使と、将軍の代わりごとにそれを奉祝する慶賀使が、近世を通じて江戸に派遣された。

江戸幕府が倒れると、(b) 新政府は琉球王国を日本領とするための一連の政策をおこなった。1872年に（ウ）を設置したが、1879年には軍を派遣してさらに（ウ）を廃止して（エ）とした。

北方では、14世紀末から15世紀初めに、本州の人々は津軽海峡を渡り、蝦夷ヶ島の南部に居住地をつくった。彼らは和人と呼ばれ、安藤（安東）氏の支配に属して渡島半島の海岸沿いに港を整備し、館を建ててアイヌとの交易もおこなった。(c) 現在の函館市にあった館の付近では、このころに埋められた大量の中国銭が入った大甕が出土していて、この地域の経済的繁栄を示している。

(d) 徳川家康から、アイヌとの交易独占権を認められた松前氏は、藩制を敷いた。松前藩は、アイヌとの交易による収入で藩の財政を支えていた。同藩では、上級家臣に蝦夷地の特定の地域における交易権を知行として与え、家臣はそこへ交易船を派遣して利益をあげていた。このような地域が蝦夷地の全域に展開されたが、先住民のアイヌの側の交易の自由は失われ、不利な状況を強いられたりした。その後、このような知行を与える制度は行き詰まり、18世紀ごろには、運上金をとつて和人に運営を委ねる（オ）が一般的におこなわれるようになった。そこでは、和人である請負商人によって海産物などが安く買いたたかれたり、日常物資を高く買わされたりするなどアイヌが抑圧されることがあった。

問12 (ア)にあてはまる人物の名を以下からひとつ選びなさい。

- ① 尚巴志 ② 尚泰 ③ 尚豊 ④ 尚寧

問13 下線部(a)に関連して、誤っている文を以下からひとつ選びなさい。

- ① 島津氏は、琉球にも検地をおこなって石高制による農村支配を確立した。  
② 琉球王国は、東アジアから東南アジアにかけて活発な貿易を展開した。  
③ 江戸幕府は、琉球から派遣された謝恩使や慶賀使に対して、日本風の服装を着ることを命じた。  
④ 島津氏は、琉球に対して砂糖などをさし出させる一方で、明や清への朝貢を続けさせたので、中国の産物を手に入れることができた。

問14 (イ)にあてはまる語句を以下からひとつ選びなさい。

- ① 薩摩 ② 長州 ③ 土佐 ④ 肥前

問15 下線部(b)に関連して、次の文X・Yを読み、その正誤の組合せとして正しいものを以下からひとつ選びなさい。

X 新政府は、琉球を日本領とした後も王国時代の制度を温存し、この地域で衆議院議員選挙が実施されたのは1912年になってからである。

Y 1871年に、台湾に漂着した琉球の漁民が殺害される事件がおきると、新政府は1874年に台湾に出兵し、清国に事実上の賠償金を支払わせた。

- ① X 正 Y 正 ② X 正 Y 誤  
③ X 誤 Y 正 ④ X 誤 Y 誤

問16 (ウ)(エ)にあてはまる語句の組合せを以下からひとつ選びなさい。

- ① ウ 琉球藩 エ 琉球県 ② ウ 琉球藩 エ 沖縄県  
③ ウ 沖縄藩 エ 沖縄県 ④ ウ 南海道 エ 琉球県

問17 下線部(c)の館の名として正しいものを以下からひとつ選びなさい。

- ① 勝山館 ② 花沢館 ③ 志苔館 ④ 大館

問18 下線部(d)に関連して、アイヌについて述べた文X・Yを読み、その正誤の組合せとして正しいものを以下からひとつ選びなさい。

X 14世紀ごろのアイヌは、グスクとよばれる共同体を形成して漁労・狩猟を中心に生活していた。

Y アイヌは松前藩の支配に反発して、1669年には、大首長コシャマインを中心として蜂起したが鎮められた。

- ① X 正 Y 正 ② X 正 Y 誤  
③ X 誤 Y 正 ④ X 誤 Y 誤

問19 下線部(d)に関連して、田沼意次は、俵物と呼ばれる海産物の輸出に積極的に乗り出したため、蝦夷地の海産物のなかには長崎から清国に輸出されるものもあった。このとき清国に輸出された「俵物三品」と総称される海産物として適切でないものを以下からひとつ選びなさい。

- ① ほしあわび      ② ふかひれ      ③ いりこ      ④ ほしか

問20 ( オ ) にあてはまる語句を以下から選びなさい。

- ① 奉禄知行制      ② 地方知行制      ③ 官司請負制      ④ 場所請負制

2

以下の〔A〕～〔C〕のすべての間に答えなさい。

〔A〕明治初期の産業政策に関する次の文章を読み、以下の間に答えなさい。

明治政府は、富国強兵をめざして殖産興業をおしそすめた。<sup>(a)</sup>工部省が中心となり、大都市圏に鉄道を敷設した。また、<sup>(b)</sup>旧幕府・旧藩所有の鉱山を接收し、その経営を引き継いだ。のちに鉱山の多くは民間に払い下げられた。

政府は軍備の近代化に力を注ぎ、東京と大阪に砲兵工廠を設けたほか、旧幕府の横須賀製鉄所を拡充し、<sup>(c)</sup>横須賀造船所と改称した。通信では、1869年に（ア）・（イ）間に電信線が架設され、公衆電報の取扱いがはじまった。内務省も殖産興業に大きな役割を果たし、1877年には同省が中心となって、<sup>(d)</sup>第1回国勧業博覧会が開かれた。

北海道の開拓も重要な課題であった。1869年、政府は蝦夷地を北海道と改称して開拓使を設け、アメリカ式の大農場制度や畜産技術の導入をはかった。1882年、開拓使を廃し、札幌・（ウ）・（エ）の3県を置き、1886年に3県を廃して北海道庁を設置した。

問21 下線部(a)に関連して、初代工部卿として工部省を主導した人物の名を以下からひとつ選びなさい。

- ① 前島密 ② 大久保利通 ③ 伊藤博文 ④ 江藤新平

問22 下線部(b)に関連して、鉱山の名称と払い下げ先の組合せとして正しいものを以下からひとつ選びなさい。

- ① 生野銀山 — 古河市兵衛 ② 佐渡金山 — 三菱  
③ 院内銀山 — 三井 ④ 阿仁銅山 — 住友

問23 下線部(c)では、どこの国の技師が艦船建造を指導したか、あてはまる国名を以下からひとつ選びなさい。

- ① ドイツ ② アメリカ ③ オランダ ④ フランス

問24 （ア）（イ）にあてはまる地名の組合せとして正しいものを以下からひとつ選びなさい。

- ① ア 東京 イ 仙台 ② ア 東京 イ 横浜  
③ ア 長崎 イ 上海 ④ ア 長崎 イ 札幌

問25 下線部(d)について述べた文X・Yを読み、その正誤の組合せとして正しいものを以下からひとつ選びなさい。

X 山県有朋主導のもと、西南戦争中に上野で開催された。

Y 臥雲辰致がガラ紡の改良機を出品し、最高賞を受賞した。

- ① X 正 Y 正 ② X 正 Y 誤  
③ X 誤 Y 正 ④ X 誤 Y 誤

問26 (ウ)(エ)にあてはまる地名の組合せとして、正しいものを以下からひとつ選びなさい。

- |        |      |        |      |
|--------|------|--------|------|
| ① ウ 鉾路 | エ 夕張 | ② ウ 鉾路 | エ 室蘭 |
| ③ ウ 函館 | エ 根室 | ④ ウ 旭川 | エ 根室 |

[B] 大日本帝国憲法に関する次の文章を読み、以下の間に答えなさい。

1886年から伊藤博文は、井上毅・伊東巳代治・金子堅太郎らとともに、(ア)人顧問(イ)の助言を得ながら、憲法草案の起草にあたった。草案は<sup>(a)</sup>枢密院での審議を経て、1889年に大日本帝国憲法として発布された。天皇は統治権の総攬者と位置づけられ、軍事・行政・外交などに関する<sup>(b)</sup>天皇大權をもつことが定められた。

天皇主権のもと、<sup>(c)</sup>内閣・帝国議会・裁判所が分立し、それぞれが天皇を補佐する形がとられた。帝国議会は、対等の権限をもつ<sup>(d)</sup>衆議院と<sup>(e)</sup>貴族院で構成された。議会の権限よりも政府の権限の方が相対的に強かったが、議会の同意なくして予算や法律は成立しなかった。<sup>(f)</sup>そのため政府は議会、とくに衆議院との間で次第に妥協をはかるようになった。

問27 (ア)(イ)にあてはまる国名と人名の組合せとして、正しいものを以下からひとつ選びなさい。

- |          |          |
|----------|----------|
| ① ア フランス | イ ポアソナード |
| ② ア ドイツ  | イ ロエスレル  |
| ③ ア ドイツ  | イ シュタイン  |
| ④ ア フランス | イ ベルツ    |

問28 下線部(a)の初代議長となった人物の名を以下からひとつ選びなさい。

- ① 伊藤博文 ② 山県有朋 ③ 松方正義 ④ 黒田清隆

問29 下線部(b)に関連して、正しい文を以下からひとつ選びなさい。

- ① 宣戦と講和については、宣戦のみ天皇大権に含まれた。
- ② 陸海軍の統帥権は、軍令機関である陸軍省と海軍省の補佐のもとに行使された。
- ③ 憲法で天皇大権と規定されている事項に関する予算案について、議会は政府の同意なくして削減できなかった。
- ④ 金融恐慌の際、若槻礼次郎内閣は台湾銀行を救済するために緊急勅令を出した。

問30 下線部(c)に関連して、正しい文を以下からひとつ選びなさい。

- ① 第1次伊藤博文内閣の閣僚の多くは、薩摩と肥前の出身であった。
- ② 各国務大臣は個別に、議会にではなく天皇に対してのみ責任を負うものとされた。
- ③ 皇室財産の管理や華族の監督にあたる内大臣は、内閣の構成員とはならなかった。
- ④ 大正初期に宮内大臣の桂太郎が組閣すると、宮中・府中の別を乱すとして非難された。

問31 下線部(d)に関連して、次の文X・Yを読み、その正誤の組合せとして正しいものを以下からひとつ選びなさい。

X 原敬内閣のときに、選挙権の納税資格が、直接国税15円以上から10円以上に引き下げられた。

Y 第1回衆議院議員総選挙における選挙人の総数は、全人口比の1%強であった。

- ① X 正 Y 正      ② X 正 Y 誤  
③ X 誤 Y 正      ④ X 誤 Y 誤

問32 下線部(e)に関連して、次の文X・Yを読み、その正誤の組合せとして正しいものを以下からひとつ選びなさい。

X 貴族院はすべて、互選により選出された皇族議員と華族議員により構成された。

Y 貴族院は太平洋戦争後、東久邇宮稔彦内閣のもとで廃止された。

- ① X 正 Y 正      ② X 正 Y 誤  
③ X 誤 Y 正      ④ X 誤 Y 誤

問33 下線部(f)に関連して、第2次伊藤博文内閣が接近した民党第一党の党首の人名を以下からひとつ選びなさい。

- ① 板垣退助      ② 大隈重信      ③ 西園寺公望      ④ 星亭

[C] 日露戦争前後の東アジア情勢に関する次の文章を読み、以下の間に答えなさい。

日清戦争後、列強は中国における勢力範囲の設定を本格化させた。日本も中国分割に参入し、1898年、台湾の対岸に位置する（ア）の他国への不割譲を清国に認めさせた。

列強の進出に対して、清国では排外主義的な気運が高まった。1900年、義和団が各地で外国人を襲い、義和団に同調的だった清国政府は列国に宣戦布告した。<sup>(a)</sup>日本を含む列国は、連合軍を派遣し、清国を降伏させ、翌年に清国と北京議定書を締結した。

日本は、満州を事実上占領したロシアが、韓国における日本の権益をおびやかす事態を憂慮した。日本政府内には、<sup>(b)</sup>日露協商論もあったが、結局イギリスとの関係強化が選ばれ、日英同盟協約が結ばれた。日英同盟成立後もロシアは満州から撤兵しなかったため、日本国内では反露感情が強まった。内村鑑三・堺利彦・幸徳秋水らが非戦論を唱えたものの、<sup>(c)</sup>言論・思想界では強硬論が支配的であった。

<sup>(d)</sup>1904年にはじまった日露戦争は日本の国力を疲弊させた。またロシアも国内の革命運動のために戦争継続が困難となった。そのため、<sup>(e)</sup>両国は講和条約を締結した。<sup>(f)</sup>戦後、日本は満州進出を本格化させたが、日本の南満州独占化は同地域に関心をもつアメリカとの関係悪化をまねいた。

問34 （ア）にあてはまる省名を以下からひとつ選びなさい。

- ① 福建省      ② 広東省      ③ 直隸省      ④ 山東省

問35 下線部(a)に関連して、次の文X・Yを読み、その正誤の組合せとして正しいものを以下からひとつ選びなさい。

- X 日本は、列国中最大の兵力を派遣し、「極東の憲兵」の役割を担った。  
Y 北京議定書により、列国は、賠償金や軍隊の北京駐留権などを獲得した。  
① X 正 Y 正      ② X 正 Y 誤  
③ X 誤 Y 正      ④ X 誤 Y 誤

問36 下線部(b)の考え方を主張した人物の名を以下からひとつ選びなさい。

- ① 山県有朋      ② 桂太郎      ③ 井上馨      ④ 西郷従道

問37 下線部(c)に関連して、当初は日本の中分割への参加に批判的だったが、義和団事件後に對露強硬論者となった人物の名を以下からひとつ選びなさい。

- ① 井上円了      ② 陸羯南      ③ 徳富蘇峰      ④ 大塚楠緒子

問38 下線部(d)に関連して、誤っている文を以下からひとつ選びなさい。

- ① 日本は多額の戦費の半分以上を内外債に依存した。  
② 日本は半年以上におよぶ旅順包囲戦で多くの将兵を失った。  
③ 与謝野晶子は、出征した弟を案じて「君死にたまふこと勿れ」という詩を『太陽』に発表した。  
④ 日本政府は戦費調達のために増税や税の新設を実施した。

問39 下線部(e)に関連して、正しい文を以下からひとつ選びなさい。

- ① ロシアは、清国から得た長春以南の鉄道とその付属利権を日本に譲渡した。  
② 日本全権青木周蔵と、ロシア全権ウイッテが講和条約に調印した。  
③ アメリカ大統領フランクリン=ローズヴェルトが、講和を斡旋した。  
④ ロシアは、樺太全島を日本に譲渡した。

問40 下線部(f)に関連して、次の文X・Yを読み、その正誤の組合せとして正しいものを以下からひとつ選びなさい。

- X 長春・旅順間の鉄道および沿線の鉄山などを経営するため、国営の南満州鉄道株式会社が旅順に設立された。  
Y アメリカ西海岸で過熱化した日本人移民排斥運動も日米関係悪化の一因となった。  
① X 正 Y 正      ② X 正 Y 誤  
③ X 誤 Y 正      ④ X 誤 Y 誤

3

大正から昭和期にかけての日中関係に関する次の文章を読み、すべての間に答えなさい。

1914年夏におこった<sup>(a)</sup>第一次世界大戦に対して、(ア)にもとづき<sup>(b)</sup>連合国側の一員として参戦した日本は、中国の山東半島にあるドイツの根拠地(イ)を占領するなどの軍事行動をおこした。そして、翌年の1915年1月には、日本政府は中国北京の(ウ)政権に対して、そのドイツの権益の継承や、日露戦争で獲得した南満州における日本の権益強化などをはかるため、<sup>(c)</sup>二十一カ条の要求を示した。当初、北京政府はこれに抵抗したが、日本政府は最後通牒を突きつけ、その要求の多くを承認させた。その結果、<sup>(d)</sup>中国国内の対日感情は悪化することになった。

この山東半島の権益は、第一次世界大戦後に太平洋・極東問題などを審議するために開かれた(エ)会議の機会に日本から中国に返還された。しかし、1920年代後半になって、日本の(オ)内閣は、日本人居留民保護を名目に(カ)にわたり山東半島に出兵した。その際、日本軍は<sup>(e)</sup>中国の統一をめざして北上する国民政府の国民革命軍と、濟南において武力衝突をおこしていた。その後、日本軍との全面対決を避け、北上を続けた国民革命軍に対し、北京にあつた満州軍閥の(キ)は、その出身地である満州への後退を決断した。しかし、これを嫌い満州の直接支配をも考える日本の関東軍によって、(キ)は帰還途上に(ク)郊外で<sup>(f)</sup>列車ごと爆殺された。しかしながら、この時点では、関東軍が意図した満州における日本の権益確保・拡大は実現しなかった。その後、関東軍の参謀として着任した(ケ)を中心として、<sup>(g)</sup>新たなる南満州鉄道爆破事件を起点とする軍事行動が開始され、その後、日本を後ろ盾とする<sup>(h)</sup>満州国が建国された。

問41 下線部(a)の戦争の展開について、その説明として誤っている文を以下からひとつ選びなさい。

- ① 国家の諸能力を最大限に動員する総力戦となった。
- ② 1917年にアメリカ・中国は連合国側に立って参戦した。
- ③ 1918年にロシアは連合国側との単独講和により戦線から離脱した。
- ④ ドイツが無制限潜水艦作戦を宣言した。

問42 当時日本が結んでいた(ア)にあてはまる同盟と、(イ)にあてはまるドイツの中国における根拠地の組合せとして正しいものを以下からひとつ選びなさい。

- ① ア 日仏同盟 イ 青島
- ② ア 日英同盟 イ 威海衛
- ③ ア 日仏同盟 イ 威海衛
- ④ ア 日英同盟 イ 青島

問43 下線部(b)の日本が参戦したときの日本政府の首相と外相の組合せとして正しいものを以下からひとつ選びなさい。

- ① 寺内正毅 一 加藤高明
- ② 大隈重信 一 加藤高明
- ③ 寺内正毅 一 石井菊次郎
- ④ 大隈重信 一 石井菊次郎

問44 下線部(b)に関連して、第一次世界大戦に参戦した後の日本の戦いについて、その説明として誤っている文を以下からひとつ選びなさい。

- ① 日本は、赤道以北のドイツ領南洋諸島を占領した。
- ② 日本は、陸軍部隊をヨーロッパに派遣して戦闘に従事させた。
- ③ 日本は、地中海に艦隊を派遣して戦闘に従事させた。
- ④ 日本は、シベリアへの共同出兵の提唱に応え、シベリア・北満州に派兵した。

問45 (ウ) にあてはまる人物の名を以下からひとつ選びなさい。

- ① 李鴻章
- ② 孫文
- ③ 袁世凱
- ④ 段祺瑞

問46 下線部(c)で日本が求めた旅順・大連、南満州鉄道の租借期限の延長期間として、正しいものを以下からひとつ選びなさい。

- ① 25年間
- ② 55年間
- ③ 99年間
- ④ 100年間

問47 下線部(c)の要求を中国側に飲ませるために、日本側がとった行動について説明した文X・Yを読み、その正誤の組合せとして正しいものを以下からひとつ選びなさい。

X 日本陸軍は、満州駐屯兵の交代を利用して中国側に圧力をかけた。

Y 日本海軍は、艦隊を出動させて中国側に圧力をかけた。

- ① X 正 Y 正
- ② X 正 Y 誤
- ③ X 誤 Y 正
- ④ X 誤 Y 誤

問48 下線部(d)に関連して、日本側の要求を受け入れたことに対して反発した中国国民は、その日を「国恥記念日」としたが、その日は何月何日か、正しいものを以下からひとつ選びなさい。

- ① 5月4日
- ② 5月9日
- ③ 9月18日
- ④ 7月7日

問49 (エ) にあてはまる会議の開催場所を以下からひとつ選びなさい。

- ① ヴエルサイユ
- ② ワシントン
- ③ ジュネーヴ
- ④ ロンドン

問50 (オ) にあてはまる人物の名を以下からひとつ選びなさい。

- ① 若槻礼次郎
- ② 田中義一
- ③ 高橋是清
- ④ 犬養毅

問51 (オ) 内閣の前後に、日本は、対中政策の稳健化を含めた国際協調外交を展開したとされるが、その外交を象徴する日本の外務大臣の名を以下からひとつ選びなさい。

- ① 陸奥宗光
- ② 幣原喜重郎
- ③ 広田弘毅
- ④ 松岡洋右

問52 (カ) にあてはまる日本の出兵の回数を以下からひとつ選びなさい。

- ① 2回
- ② 3回
- ③ 4回
- ④ 5回

問53 下線部(e)に関連して、この国民革命軍を指揮した国民政府の指導者と、そのときの軍事行動を示す語句の組合せとして正しいものを以下からひとつ選びなさい。

- ① 蔣介石 — 長征      ② 毛沢東 — 長征  
③ 蔣介石 — 北伐      ④ 毛沢東 — 北伐

問54 ( キ ) にあてはまる人物の名を以下からひとつ選びなさい。

- ① 張作霖      ② 閻錫山      ③ 馮玉祥      ④ 張学良

問55 ( ク ) にあてはまる中国の地名を以下からひとつ選びなさい。

- ① 大連      ② 奉天      ③ 長春      ④ ハルビン

問56 下線部(f)の爆殺事件後におこった事態について述べた文X・Yを読み、その正誤の組合せとして正しいものを以下からひとつ選びなさい。

X 日本側では、事件の真相は国民に公表されなかつたが、関東軍の関係者に対する厳重な処分がおこなわれた。

Y 中国側では、( キ )の後継者が、勢力下にあった満州を国民政府支配下の土地と認め、国民政府に合流した。

- ① X 正 Y 正      ② X 正 Y 誤  
③ X 誤 Y 正      ④ X 誤 Y 誤

問57 ( ケ ) にあてはまる人物の名を以下からひとつ選びなさい。

- ① 児玉源太郎      ② 河本大作      ③ 石原莞爾      ④ 東条英機

問58 下線部(g)の爆破事件後の展開を説明した文として、誤っているものを以下からひとつ選びなさい。

- ① 関東軍は、この爆発事件を中国軍の仕業として軍事行動を開始し、満州の主要地域を占領した。  
② 日本政府は、当初不拡大方針を掲げたが、事件の收拾ができないままに、内閣総辞職に至った。  
③ アメリカは、日本の満州における一連の行動について不承認宣言を発出し、この姿勢を基本的に変えなかった。  
④ 国際連盟は、日本を強く非難し、満州における日本の経済的権益も全く認めなかつたため、日本はその後国際連盟を脱退した。

問59 下線部(g)の事件後、1930年代の日中関係における節目の出来事について、その展開として時系列的に正しく並んでいるものを以下からひとつ選びなさい。

- ① 塘沽停戦協定 → 西安事件 → 盧溝橋事件 → 第2次上海事変  
② 西安事件 → 塘沽停戦協定 → 第2次上海事変 → 盧溝橋事件  
③ 塘沽停戦協定 → 第2次上海事変 → 西安事件 → 盧溝橋事件  
④ 西安事件 → 塘沽停戦協定 → 盧溝橋事件 → 第2次上海事変

問60 下線部(h)の満州国について述べた文X・Yを読み、その正誤の組合せとして正しいものを以下からひとつ選びなさい。

X 清国最後の皇帝であった溥儀が、1932年に満州国の皇帝となった。

Y 満州国は、日満議定書で日本軍の無条件駐屯を認め、また、満州の交通機関の管理を日本に委託した。

- ① X 正 Y 正      ② X 正 Y 誤  
③ X 誤 Y 正      ④ X 誤 Y 誤